

佐伯鶴城新聞

since 1911

第99号

所立城校部
編集長 佐伯 幸ほど
編集委員 大佐 真かま
編集委員 大佐 真かま
編集委員 中川 安

「盛り上げていきたい」 活気のある文化の部に



実行委員長の山本さん

鶴城祭文化の部に向けての準備が生徒会や実行委員会を中心に進められている。そこで、実行委員長の山本拓さん(2-1)と文化委員長の富高秀斗さん(2-1)に話を聞いた。

山本さんは「生徒が主体となって『チーム鶴城』としてみんなが盛り上げられるような文化祭にしたい」と話す。「試行錯誤をして取り組んできたので、前年度より生徒に積極的に参加してもらって、全員で楽しんでほしい。実行委員全員が文化祭を成功させたい」と語る。

また「生徒一人ひとりが

各クラスのクラス展示や係の仕事を鶴城祭のために頑張っているけど、実行委員長として、その空気をまとめ上げて活気のある文化祭にしていかねければならない責任感がある」と話した。

最後に「1年生は経験したこともなくて迷うこともあると思うけど、協力して鶴城祭を盛り上げるための一員として積極的に参加してほしい。2年生はより中心となってみんなを盛り上げられるようにみんなを引っ張ってほしい。3年生は最後の文化祭なので、クラス展示はできないけど、その分いろんなこと

いよいよ本日から鶴城祭文化の部が行われる。そこで、実行委員長の山本拓さん(2-1)、文化委員長の富高秀斗さん(2-1)、MCの大崎翔矢さん(3-4)と岩矢紘汰さん(3-1)に意気込みを聞いた。

また、各文化部の発表・展示について紹介する。



文化委員長の富高さん

に参加して精一杯楽しんで、思い出に残るような文化祭にしてほしい」と呼びかける。

「準備で大変だったことは、川柳を掲示するか、新聞を出すかまともななかったことだ」と富高さんは話した。また「準備でたくさんの人と話せるし、人を楽しませる準備過程が楽しい。当日のオープニングのダンスに力を入れている。川柳はより多くの人に見てもらったり投票してもらえようように工夫している」と話した。

そして文化の部について

思い出に残るものに みんなを笑わせたい

今年の鶴城祭文化の部、MCの大崎さんと岩矢さんは「全校生徒が楽しめるように、とびきり面白い文化の部にしたい」と話した。

また「とにかくテンションをあげて、生徒だけでなく先生や保護者、地域の方など来てくれる人全員を笑わせることができるように頑張りたい。今はワクワクしている反面、ドキドキもしている。今は文化の部を、どう盛り上げるかということと、ネタ合わせを頑張っている。『あの二人を忘れない』という感じにし



MCの大崎さんと岩矢さん

たいと思っている。全校生徒の心と思い出に残るものにした」と話してくれた。

最後に「1、2年生、展示の制作頑張れ」とエールを送った。(中川 まどか)

みんなで楽しむ 練習の成果を出す

文化の部で活躍する文化部の部長の方々に話を聞いた。

【吹奏楽部】成田葉月さん(2-1)は「本番のステージ発表では色々な種類の音楽を、自分たちだけでなく、みんなで楽しめるように演奏する。色々な曲の中でソロを吹くパートもあるのでよく見てほしい」と話した。

【書道】仲谷優花さん(2-2)に話を聞くと「1日目の文化会館では

書道パフォーマンス、2日目は、今まで書いてきた作品展示をする。生徒のみなさんに向けて伝えたいことを、このパフォーマンスを通じて伝えたい。最後に大きい紙を立てる所が見どころだ」と話した。

【美術】「ステージ上で全員で大きな絵を描く。絵の案を考えるのと大きい紙を作るのは大変だった。みんなが知ってほしいものをポップな感じにした絵になっている」と淡居ちひろさん(2-5)は語った。

【放送】三宮なつめさん(2-5)は「夏休み中に撮ったドラマを編集してステージでながす。カメラのアンクルやBGMにこだわった。データが消えかけて大変だった」と話してくれた。

【科学】広津留正也さん(2-5)は「1日目は文化会館でカメラエカズラ

【英語】部員の方々は「ステージで生徒参加型の動画をながす。制作から自分たちで考えて撮った。楽しく作れたので大変だったことは特にな」と話してくれた。

【新聞】「ステージでフォトムービーをながす。曲や写真の出し方を工夫した。楽しんで見てほしい」と話す。

(中川 まどか)

(安藤 かほ)